

感染症 ひとくち情報

侵襲性髄膜炎菌感染症に注意しましょう！

2019年11月15日
東京都健康安全研究センター

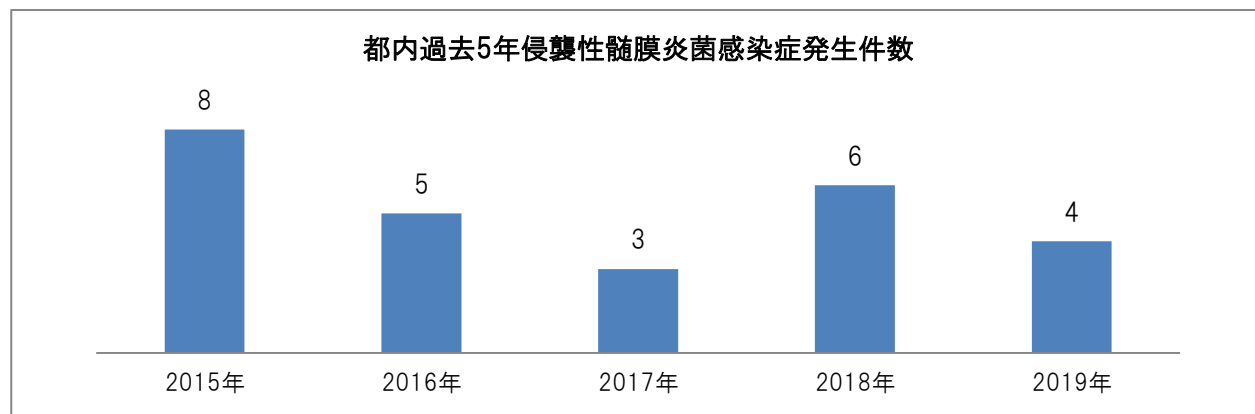
1. 侵襲性髄膜炎菌感染症とは

侵襲性髄膜炎菌感染症は髄膜炎菌による感染症で、この菌が髄液又は血液から検出された感染症のことを言います。髄膜炎菌は人を唯一の宿主とする細菌で、咳などを介して感染します。患者の世話や寝食を共にする、飲み物を回し飲みするなど濃厚な接触があった場合に感染するとされ、感染した場合であっても必ずしも発病するとは限りません。潜伏期間は2日から10日（平均4日）で発症は突発的です。発熱、頭痛、嘔吐に加え、重症化すると、意識障害、痙攣、ショックなどに進展することがあります。発症後は迅速な抗菌薬治療が必要とされています。



2. 発生状況

侵襲性髄膜炎菌感染症の集団感染の多い地域として、アフリカ中央部のベナン、スーダン、エチオピアなどの国を含む「髄膜炎ベルト地帯」が知られています。また、先進国でも学生寮で生活している場合などにおいて、集団感染が報告されています。都内でも毎年数件の発生報告があります。



3. 予防について

予防には抗菌薬の投与とワクチン接種が有効です。患者と密に接した場合には抗菌薬の予防内服を行う場合があります。また、侵襲性髄膜炎菌感染症の流行地域へ渡航する際などには、ワクチン接種が推奨されています。

